

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	とおりゃんせサードプレイス 海（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2026年6月1日 ～ 2026年6月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2026年6月1日 ～ 2026年6月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年7月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	フード、エクササイズ、ブレインを合言葉に子どもたちの可能性を広げる支援を行っています。環境が整備されており、多目的室ではボルタリングやダイナミックな全身運動に取り組めます。	〔フード〕 事業所内にて丁寧に手作りした昼食やおやつを提供しています。食材や調味料も厳選し、子どもの身体に良い献立になっています。 〔エクササイズ〕 運動発達著しい時期に様々な運動の基本となる動きを身につけられるよう、多様な活動を提供している。 〔ブレイン〕 機能神経学に基づいた脳の発育バランスを整えるトレーニングを行い、気になる症状の改善を図っています。	〔フード〕 第2の脳といわれる腸にとって、食は大切です。トレーニングでエネルギーを消費した脳に必要な栄養を運ぶためにも、食の大切さを伝え続けます。 〔エクササイズ〕 「からだ力」を育むために「うごき」「からだ」「きもち」に働きかける運動プログラムを行います。 〔ブレイン〕 固定化しないプログラムを立案し、子どもの五感に働きかけるアプローチを行います。
2	PT、OT、保育士などの専門職が多数在籍しています。	それぞれの専門性を活かした個別および集団で活動を実施しています。	それぞれの専門性を高めつつ、協働して子供たちの支援を行います。
3	地域に開けた事業を行っています。	・持ち帰りのおかず販売など地域に開かれた事業運営が行えています。 ・土曜日、祝日も営業しています。	・地域住民参加型のイベントを検討しています。 ・時代の変遷により柔軟な対応をしています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全スタッフで細目な情報共有や、PDCAサイクルを行う機会が少ない。	全スタッフが集まる機会が少ない。	業務スケジュールの中に、全スタッフで共有できる時間を確保し、話し合う機会を設ける。
2			
3			

事業所名		とおりゃんせサードプレイス 海 （児童発達支援）				公表日	2026年7月10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容や利用人数により、パーティションを開閉できる。机上活動、運動室、静養室に部屋が区分されている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用人数やこどもの状態に応じて職員を配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関はバリアフリー化されており、階段には手すりが設置されている。各クラス内線も準備されており、緊急時の対応もしやすい。子ども用の洋式トイレがある。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、清掃及び設備や使用物品の消毒を行い、安全衛生管理に努めている。運動するための十分なスペースが確保されている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		感染対策や体調に応じて、使用できる個室がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の業務内容を振り返り、改善に努めている。	細目な情報共有（保護者の意向の周知など）を行う機会を設ける必要がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年アンケートを実施し、業務改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		情報共有する場は設けている。	事象のみを共有するのではなく、それに対して、共通の目的を理解し、対応・改善する必要がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に参加している。事業所内では、職員の希望に合わせて、専門職が研修を開催している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページ上にて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		児童発達支援計画作成時には、評価ツール結果や観察を基に、保護者との面談の機会を設け、方向性を決めている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		面談終了後の情報共有や日々の申し送り内容を基に作成している。	スタッフが共通認識を持てる場を細目に設ける必要がある。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		常に計画書の内容が確認できる状況にあり各々計画に沿って支援が行われている。	日々状況が変化するため、それぞれの職種が気づいたことを細目に話し合う必要がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマルなアセスメントの利用や、PT・OT評価、観察を行っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		各項目を盛り込み、具体的に支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		保育士、機能訓練スタッフ、児童指導員など、多職種で立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節の行事や屋内外での活動を取り入れている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別及び集団の両方の視点を大切に支援を行っている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		大まかなタイムテーブルを共有して支援している。	活動中も状況に応じて、その都度情報共有する必要がある。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		申し送りをを行い、全員に周知できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用時の状況、活動の様子、こども園や幼稚園、保護者からの報告を記録している。気づいたことは、その都度話し合い検証し、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、必要に応じて見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、その他会議内容に適した職種が出席している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と積極的に連携を図れる体制がある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併用こども園、保育所、幼稚園と連携を図り、見学会や会議等を開催し、情報共有及び相互理解に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		引継ぎシートを活用し、発達の特性に関して情報提供を行い、相互理解を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		必要に応じて助言を受けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		事業所のある町内の幼稚園の園開放へ参加し、同年代のお友達との交流を図っている。地域で開催されるイベント等へ参加する機会を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用中の状況や様子に関して、口頭や連絡ノートを用いてお伝えしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		研修案内のポスターを掲示し、情報提供を行っている。	インフォメーションのみとなっていることが多いため、積極的に参加していただけるよう取り組んでいきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に管理者もしくは児童発達支援管理責任者より説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談の機会を設け、話し合える場を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	駐車場が確保されたため、今年度は家族参加型のお祭りイベントを開催予定。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		些細な内容に関しても、申し送り案件として迅速かつ適切に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月とおりゃんせ通信を発行している。SNSを活用し、行事や日々の活動を発信している。	

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の含まれる書類に関して、施錠可能な場所へと保管している。破棄書類に関しては、シュレッダーを使用している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特性や配慮事項を考慮し、短い文や単語で伝えるようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		手作りお弁当の配達やお持ち帰りおかずの提供を行っている。カフェスペースやリサイクル品コーナーを設けている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルが策定されており、全職員に周知できるよう、研修会・訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定しており、安全管理の計画に基づいて、法人にて訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメントシートを利用開始時に提出していただいている。必要に応じて医師による指示書や発作共有シートの提出を依頼している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギー調査票を記入していただいている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、それに基づいて研修や訓練を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難経路などはお便りや掲示にて保護者方への周知を図っている。また、安全計画に基づく研修を実施、周知している。 災害時に備えて常備薬を常時持参していただいている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例が発生した場合は即時に職員会議を開催し、事故再発防止に努めている。年度末に事例をまとめて職員に周知している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に事業所内にて研修会を開催するとともに、外部研修にも参加している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			現在、身体拘束を行う利用時はいない。